

稲作農家の皆さまへ

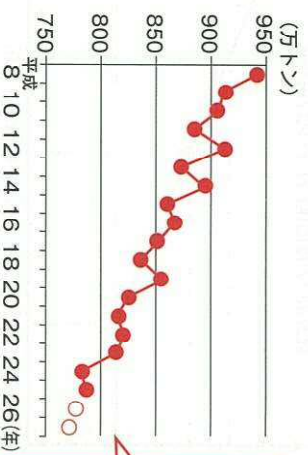
飼料用米で 所得の安定確保と 持続経営を！

基本がわかる

Q&A

JAグループでは、水田農業をとりまく昨今の厳しい状況を打開し、販売環境を好転させるためのさまざまな施策を展開しています。特に、生産者の所得と26年産米の出口（古米需要）を確保するため、27年産主食用米の生産数量を削減し、需要が見込める「飼料用米」の生産を大幅に拡大する取り組みを積極的に進めています。

■主食用米の需要は減少傾向



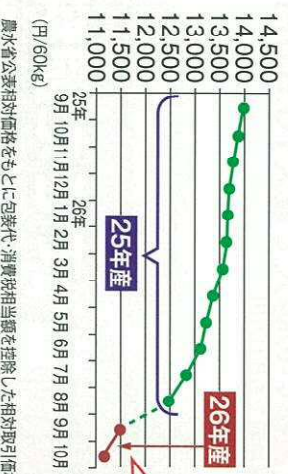
8万トン程度減少
より米の需要は、人口減やライフスタイルの変化により減少傾向にある

このまま主食用米だけ
作り続けていくと
どうなるの？

ご存じのとおり、**主食用米の需給は過剰基調**にあり、26年産米の販売米価はかつてない水準まで下落しています。

各産地の概算金も当初から古米販売を想定した水準で設定せざるを得ず、近年で最も安いとされた22年産米をも下回る低水準となりました。このため**水田営農は危機的な状況**となっています。

■主食用米の販売価格は下落傾向



価格が大きく下落
需給緩和を背景に、販売価格が下落傾向にある

なぜ飼料用米がいいの？

国の試算によれば、飼料用米の国内利用可能量は約450万トンあり、**大きな需要が存在**しています。

非主食用米である飼料用米の生産が拡大すれば、主食用米の需給改善につながるばかりか、水田のフル活用、耕作放棄地の解消、米づくりを通して所得の確保と経営安定、さらには食料自給率の向上などたくさんメリットをもたらします。

■非主食用米の状況

加工用米	大幅な需給緩和で価格相場は下落傾向
備蓄米	買入枠が決まっており、生産拡大に限界
米粉用米	米粉需要は伸び悩み、在庫過剰
飼料用米	国内に大きな需要が存在



飼料用米で生産者の所得を確保し
地域・水田農業を維持・発展させましょう！！